

### 1. 気づいたこと

- ・本日のようなワークショップは人権に対する基本的な認識を持つことが出来ると思った。このようなスタイルのワークショップを職場や地域、学校などで行うと良いと思った。
- ・以前から関心のあった人権のテーマも改めてワークショップや事例を知ることで上書きできたと思う。限界があるように感じた問題を多くの人とシェアし、考えることで動き出すのだと思えた。
- ・学校現場以外でも、人権について関心を持ち、実際に活動していらっしゃるということ。(当たり前のことを再発見しました。)
- ・「自治体」「環境」「自分」と3つの視点で考えることが新鮮で必要だと感じました。
- ・他の人から学ぶことがたくさんある。もっといろいろな人とかかわった方がよい。
- ・グループのディスカッションでも、気づきの視点がそれぞれ違うことに気づいた。
- ・キャラバンへの参加者が多く活発な議論が行われた。人権問題について、参加者が多様な視点から問題を認識している。
- ・事例発表をしてくださった方々のエネルギーな活動が、社会をより良くしていくと思えました。行動することの大切さに気づきました。
- ・複数の方々からいろいろな角度の意見を聞くことによって、原因・対策を考える楽しさに気づきました。
- ・「知らないこと=怖い」という認識が差別を生む。
- ・知っているようで知らないことがたくさんあること。人権課題はたくさんあり原因はつながっていること。私たちの意識が原因になっていることがたくさんあること。
- ・人間は自分を守ろうとしてマジョリティ側にいれば安全／安心を確保できると思っている。→マイノリティにいたくないという思いや行動に現れてしまっていること。
- ・自分を他者と共にアップデートして学びを深めることの楽しさ。(スキルアップにつなげ、帰って学校で共有。) こういうワークショップに多くの人に参加すれば、学校の授業で取り入れ続けられれば、差別はなくせるのかもという明るい展望。
- ・まず今日ここに参加している人個々に様々な課題を持って臨んできていることに気がつきました。各々の課題解決ができればそれが全体が大きく変わっていく一步になるのだらうと思えました。問題意識を持つのが人権尊重に肝心だと思えました。
- ・基本的な問題は無意識下にあると思えました。教育でやれることは50%底上げすること。(人権意識、差別について) その他が自分の生い立ちや歴史の積み重ねもある。そこからいかに脱却できるか。
- ・人の価値が低くなっている今日この頃。時代は変わる。
- ・話し合うこと(グループワーク)で自分の視野、考えが大きく広がることに気づきました。

・社会の偏見は、生活に植えつけられた日常、また歴史の背景や文化的思考等で長年培われてきたことが改めて分かった。人の欲求や願望、恐怖や優越などの心理的感情も起因していることも知れて嬉しい。

・多様性のあるメンバーで意見を言い聞いていたが、だいたい同じような考えを持った人が多かった。今日のテーマは「部落差別」と「LGBT」であったが、それぞれ当事者の方などからのお話があり、新たに聞いたことは、居場所、コミュニティが必要だと感じた。

・問題解決のためのプロセスがあること。現状把握がまず先！17項目の重要人権トピックがあること。自分で頭で分かっている、しみついた規範意識があること。

・自分の学校教育で知ったことと現在、現状の違い。部落差別がいまだ若い世代にも影響を与えているということと社会全体の問題と似てきているという点。

・部落差別が就職や結婚にまだ影響していること！ショックだった。いくつかの課題が重なっていること、何重ものマイノリティ。

・公の色々な機関がきちんと機能しているとは限らない。同和問題は今でも深刻。

・「みんなこの地球に生まれてきた同じ人間なんだ！」まずは自分から。知らないことがまだまだいっぱいあること。

・世代間で社会的諸課題の捉え方が異なること。当事者との交流がないという人の多さ。参加型ワークショップによる新たな気づきの多さ。

・自分の正常は正しいこととは限らない。学び直しの大切さ。「寝た子を起こさないではなく…起こす」。

・今の日本にはまだアップデートが足りていない！特に教育の場。世代によって育ってきた環境が違いすぎる。認識と社会のズレ、どの世代も同じ内容で学び直しが必要。

・様々な課題があることが分かっているにも関わらず、日常生活の中で都合のよい部分しか見えていないワタシの都合のよさ。

・国内に限らず、「外国」からも学び、考えをアップデートしていく。自分の固定した観念を随時改めていく。

・人々の意識が社会構造を造り、社会構造が人々の意識をつくるので、良い循環を生み出していくことが必要。

・ワークショップでみんなで考えることは、豊かな学びを生む。

・正しい理解。多様性を知る。思いやる。自分の意見を出す。

・色々な差別に対して、なくす努力と国・県などを動かすことが必要！

・今日この場にいらっしゃる方々はすでに人権、尊厳について思慮があります。この場に来られない、来ない、興味がない方々へどうやって広めていくのかを個人としても考えなければならぬのではと思いました。

・「無力感」を感じた時にも「○×についてこんな無力感を感じている！から明日コレをする」と1ミリでも進むことをする。多くの「人権」に対する様々なご意見を目にする事ができる、このような場がとても有意義であると再確認できました。

- ・無関心、無反応でいることも差別につながるということ。知ることから動かせることがある。
- ・みんな仲良きの間違いについても、もう少し深く話してみたいなと思った。みんな仲良くというものが今までの自分の判断や苦しさに大きく関わっていると思う。
- ・法律は遠くない!!意外と参加者から出てくるもの。15分の事例発表、1分の共有でもしっかり深まる。濃い3時間半！県の条例にも差別の禁止を明記して♡
- ・無意識、無関心も差別につながる。学校で教えている→伝わり方で間違った教育になっていないか。
- ・人権、差別について知らないということ。正しい情報が得づらい。情報を得たとしても、ネガティブで良い印象ではない。差別について制度化。
- ・人権について自分が知らない、気づいていないことがまだまだたくさんあった。誰もが知らず知らずのうちに、差別を無視したり見逃したりすることによって差別をなくしづらくしている。
- ・部落差別の実態を改めて知りたい。LGBTQ+はやはり若い人々が対象…それも頷ける。
- ・人権教育は社会教育でも1つのテーマとしている。地域課題として人権を考えていきたい。
- ・LGBT当事者が身近にいること。
- ・知らないことが多くあること。
- ・人権を考えるワークショップに、これだけたくさんの方が参加→意識を持っている人はたくさんいるんだ。
- ・部落差別などは昔のことだという意識があったため、今でも続いている問題だと知ることができた。
- ・同和を取り巻く差別の問題と、今の日本を取り巻く諸問題の平行性。もうちょっと考えてみたい。
- ・イメージや間違った情報がその人の価値観や考え方をつくってしまっていることがある。教育（学校に関わらず）は大切。
- ・人の痛みを知ること。
- ・人権を大切にするにはとてつもない労力が必要。そのことに使う時間やスタミナが日本人全体にあるのか？
- ・部落差別問題が知られていなかったこと。大阪で生まれ育ったので、部落のことも朝鮮の人への差別もとても身近だったので、地域によってこんなにも違うのかと改めて思った。

## 2. 大切だと思ったこと

---

- ・正しい知識だけでなく、自分のこととして差別の原因、影響、社会的な課題として体系的に理解することが大事だと思った。
- ・アンテナをのぼしつづけること。大きな課題もまず小さなことや自分自身が感じた少しのとまどいや モヤモヤが解決へのカギになる！
- ・それぞれの現場でこれからどんな活動、どんな言動で、その場所に変化を起こすことができるのか、実行力が大切だと思った。「無意識」とか「自ら判断せずに他人任せにする」ことは良くない。気づいていくこと、意識すること、自分の意見を持つことが大切だと思った。
- ・色んな人の意見を聞くこと←いろんな人に出会うこと。自分の意見を話すこと、行動すること。
- ・正しい情報を得る。当事者の人やそれに近い人の話をきく。心をかたむけてきく。
- ・自分とは違う価値観、気づきを否定しないこと。
- ・無意識、無関心でいることの恥ずかしさ。固定観念に執着することの恐ろしさ。当事者意識から逃げてきたことの虚しさ。
- ・話し合いの場を創る。多様な人々と話し合う。
- ・まずは最初に「学ぶ」ことから始まることです。その学びにおいて現状把握→影響予測→原因探求→問題解決がステップとして大切だと考えました。
- ・意識すること。理解すること。知ろうとすること。
- ・自分の当たり前、普通を全てに当てはめないこと。ちがいを楽しむことができるぐらいの余裕を心にもてるようにすること。もっと自分から正しい知識を得て、それを伝えていくこと。
- ・差別はされる側の問題ではなくする側の問題であり、各人がそのことを意識しなければならぬ。
- ・こうやって職場を離れ、様々多種多様なジャンルの人々と学び合える機会を自分でつかみとっていくことの重要性。出会った人との今後のつながり。
- ・話し合うこと、いろいろな意見を交換して考えを深めたり、違う視点に気づいたりすること。
- ・どの人に対しても自分のことのように愛せることである。その前に、自尊の感情があるかが問題だが。
- ・いつまでも学ぶ姿勢。差別される側になったら…と想像する力。
- ・政治への働きかけ。多様なセクターのつながり。
- ・差別は無意識または生物的本能（競争）によって生まれてくるため、「知ること」はとても大事だと認識した。良い案だけではなくそれを施行した後のリスクをもっと追求したいと考えました。
- ・コミュニケーション、対話が必要なことを学んだ。前向きな考えの方が多いのもあるが、

積極的であった。

・プロセスの中で共通理解を整えながら、アイデアを出し合うこと。それをグループに開示することで向き合う人がエンパワーメントされる。

・いろんな考え方、価値観が存在するので、互いを認め、共存共生できるように努力したい。

・学んだことを発信する。対話。1対1、顔の見える名前呼び合う出会いを大切にする。

・周囲を巻き込んだ／交流のできる活動。直接関わるのが一番偏見を減らすことにつながると思うので。

・どの人に対しても「リスペクト」すること。もやっとした「ヘン」と思った時点で、考えるクセを持つ。

・アンテナを高くして学び続けること。普段接点がない人との交流、対話。自分が正しいと思わない、自分の認識を問い直し、アップデートし続けること。

・習慣や正常、思い込みに疑問を持つ。そのためには正しい情報、知識、教育の場が大切。

・アップデートをすること。「普通」を使わない。差別だということに気づけるようにする、それに対して指摘するための知識と勇気をもつ。

・知ること、考えること。

・正しい理解、違いを尊重。

・意識を変容させるための対話。正しい知識を得ること。自分と違うこと、人、意見を承認すること。

・自分の中の凝り固まった考え方に気づくことです。

・いろんな人、考えがあっていい。思うだけではなく行動に移す力。

・国が法律を作るべき、差別した人には罰則が必要。正しい人権教育を啓発だけではなく、身近に親身になって考えられることが必要だと思う。法律がなければなくなる。

・自分がまず「差別に加担しているかも」と知る。→「自分は差別していない」と言われる方にどうやって丁寧に伝えるのかを、話し合う必要がある。「寝た子は起こすな理論」を真っ向から否定する。

・「思考停止をしない」。同じ問題に対する時にも多角的に「見る」「知る」。

・教育の世界でできることもたくさんあるけれど、行政や国へ働きかけていくことで変わることもある。

・安心して話せる場で、考え続けていきたいと思います。

・「わたしにできること」ではなく「国・県・市町村」「学校・地域・会社」を考えること。「問われれば考える」「構造化して考える」

・すでに自分の中に色々な先入観がある。自分の常識が本当に正しいものかを疑ってみる。

・自分の意志をもち、正しい情報を見極める。情報は自分でつかむこと、そして発信すること。

・まずは「知る」。正しい知識を得ることが大切。ネットで表に出てくるものだけを見ていては危険。教育が担うところは大きい。

- ・自らに正直に、ダメなことはダメと言い続ける。
- ・部落差別をなくすには日本人全体の意識を変えなければならない。
- ・知ること、理解を示すこと。自分のことを発信すること。
- ・主体的に知る、学ぶ。
- ・無意識に差別していないか考えることが大切だと思った。
- ・やはり差別は、なくさないとなくなる。
- ・様々な人と意見交流すること。自分の見方、考え方を客観的に捉えて、おかしいと思ったら修正していくこと。学ぶ場をつくること、参加すること。
- ・愛と優しさ。
- ・家とか会社とかいろいろある所属で決めつけない。個人と個人で向き合うが必要だが、大変すぎる。努力でどうにかなると思えない。
- ・違う意見の人や「それ間違ってるよ」ということを、ワークショップの中でどんな風に伝えたらいいか迷いました。

### 3. これから実行しようと思ったこと

---

- ・本日の問題の立て方、個人権課題を体系的に考えるようにし、できるだけ身近な人と共有していきたい。
- ・様々なニュースや絶望的な報道にまどわされず、人間のもつ優しさや知性を今再びつかみ直そうと思えた。SNS だけでなく、友人たちとも話してみたいです。たいへんに考えられた参加学習のワークショップでした。回数多く開かれ、これまでこのようなイベントに無関心だった方々の参加があるよう祈ります。
- ・幸いまだ学校現場にいるので、学校で教科を教えるだけでなく、日常のふれあいの中で信念をもって 穏やかに、生徒とともに考える姿勢をもちたい。
- ・教育現場にいるので、まず月曜日にこのイベントに参加したことを伝える。→他の日程があることを伝え 1 人でも多くの人と共有する。
- ・人付き合いをめんどうくさがらない。つらくても知るを続ける。本当に正しい情報なのかを確認する努力を怠らない。
- ・人に伝えることの大切さを実感したので、いろんな場面で発信していきたい。
- ・マスコミ報道を通じた情報収集。人権関連イベントへの参加。
- ・一人ひとりが持っている“ステキ”をたくさん発見し、“ステキ”と伝える。
- ・自分の中の当事者性に気づくこと。差別禁止法の成立に向けて声を上げていくこと。「ふつう」という言葉を使わないこと。
- ・知ることに力を入れたい。できればそれを知らない人に伝えていく。
- ・正しい知識を得る。当たり前、普通を全てに当てはめない。心に余裕をもって生活。ちがいを楽しむ。知ったことをもとに目の前の子ども達に正しい教育をしていく。
- ・真実を見極められる知識や考えをみがき続けていくこと。利他のマインドを常に持つこと。
- ・学校と地域、保護者や企業とつながるようなイベント開催、居場所づくりができるのではないかと考えてきた。まずはつながるために動くこと。
- ・選挙の時に、候補者の話をよく聞くこと。傾聴すること。
- ・私は minority の人の居場所を作りたい。その為にやることは人との協力が必要だ。
- ・その人をありのままに受け入れる。♡LOVE Human♡
- ・「人権」の視点をもって教育（仕事、活動）を続けること。
- ・調べる。時事問題、歴史、政治等についてもっと勉強（情報を得る）。色んなイベントに参加してコミュニケーションをとる。
- ・もう少し幅を広げた啓発活動。
- ・限られた時間を有効に使って共通理解とアイデアを出すスキル。きれいで分かりやすい文字を書く（共通理解を進めるテクニック）。
- ・発信等、当事者として。

・こういう場に参加し続けたい。“当事者”とかくくるのではなく、人と出会って、対話したい。

・出会いを求めて積極的に行動する。交流は楽しい！分かったこと思ったことを積極的に（伝える）話し合う。→差別を減らすことにつながると思う。

・「自分は差別する、偏見がある」ことを前提に、意識してコミュニケーションをとる。もっと学びの場に参加する。もっと人と出会う（当事者の人も含め）、そして対話したい。「それって差別だよ」と言う!!

・学びの場に今後も積極的に参加して現状把握に努め、それを自分の学校にもち帰り、授業実践を通して伝えていくこと。

・次回の（子ども・外国人）のワークショップにも参加する。学び続けること。当事者意識。

・自分も常に新しい情報や知識を得てアップデートしながら、少しずつ全てのことについて「自分ごと」として考えるようにする。

・無関心を決め込むことは簡単ではあるけれど、時には疑問をもって考え、学ぶこと、知ること、関心をもつこと。

・CSR 担当として、社内研修、コミュニティの支援（の検討）。

・気づいたことを日常の中で行動に移していくこと。子ども（家族）との対話。

・自分の時間を大切にし、時に立ち止まることです。

・我が身を振り返る。

・自身も今までの知識に対してもっと深める努力をしたい。

・今日の出来事を家族、知人に話したいです。

・明日も必ず誰かの想いに寄り添うように努めるよ！

・自分が知ったことを広める。差別はしているかもという前提で自分を省みる。

・子どもに対しては人権について考え、社会に対して訴えていきたいと思っていたのに、自分の中に人権を持ってないことのねじれがある。多様性の難しさ、対立の怖さ、その時その時に自分と向き合っていこうと思う。

・研修プログラムを見直す。「社会構造が大事」と講義するのではなく、ワークで気づくものを。

・差別のシーンを感じたら、それはダメだと言える勇気。差別は自分で止める→子どもへの伝え方。

・人権、差別について正しい知識を得る。知る場面に行き、情報をつかむ。多数派に流されない。自分がどう考え、どう思うかを大切にする。

・人権に関する授業をこれからも。自分から学びに出る。自分が決める、多数派に流されない。法制化が必要。法律に守られないと個人の行動が抑えられてしまいます。

・自分の生活、活動に活かす、実践する。

・これまでもやってきたが、LGBT 関係の本をこれからもできるだけ読んでいきたいし、テレビのその関係の番組もできるだけ見たいと思う。

- ・周囲の人を大切にすること。気づかぬうちに偏見を持っているかもしれないと思うこと。
- ・まず差別問題について、ジャンル関係なく知識を得たいと思う。
- ・人権をテーマにした参加型アクティビティ集の完成。
- ・「ふつう」を自分基準で決めない、使わない。それは差別じゃない？と言えるように。
- ・正義。
- ・人をどんなグループに分けられる人かで見ない努力をしていく。
- ・「ふつう」という言葉を使わないことを意識する。「それ、差別ですよ」と教えてあげる、めんどくさい人になる。(場面によっては難しいけど。)